

平成 29 年度 第1回 山形のみちづくり評議会 議事要旨

1. 日時

平成 29 年 12 月 1 日（金） 14 : 00～16 : 00

2. 出席委員

柴田会長、貝山委員、藤田委員、塩原委員、津藤委員、宮原委員、池田委員、小山委員、
深瀬委員、千葉委員代理、早川委員代理

3. 議事

- (1) 平成 28 年度 道路事業の達成度報告について
- (2) 次期中期計画策定に向けた課題整理等の作業状況及び今後の方向性について

4. 議事概要

- (1) 平成 28 年度達成度報告書について

平成 28 年度供用箇所を踏まえ、山形県中期計画の平成 28 年度達成度について事務局より報告した。あわせて、現道路中期計画において目標に掲げた各指標の平成 30 年度末までの達成予測を示した。

- (2) 次期道路中期計画策定に向けた課題整理等の作業状況及び今後の方向性について

新たな道路中期計画策定に向け、この 10 年間の取組みを検証し、現状での課題を整理するとともに、今後の方向性（案）について事務局より報告した。

委員からの主な意見は以下のとおり。

山形のみちづくり評議会（第1回）における主な意見

◆H28 達成度報告について

- ・達成状況について、一部未達成の項目があるものの、概ね達成しており、県の道路政策の方向性としては良かったのではないかと。

◆高規格道路のネットワークについて

- ・この10年間で、縦軸（南北方向）の道路（東北中央道、日浴道）は整備が進んできているので、次の10年は横軸（東西方向）に着目していくべきである。
- ・東日本大震災でも顕著になったように、リダンダンシーの観点からも日本海側と太平洋側をリンクさせていくことが重要。（新庄酒田道路、石巻新庄道路、新潟山形南部連絡道路等）
- ・高速道路は一年間通して安全に通行できることが重要であり、そういった意味では冬季の通行が危険な月山道路はミッシングリンクになると考えられ、次の10年間で整備するということを強く要求してほしい。

◆安全・安心について

- ・子供達だけでなく、高齢者にも安心して使ってもらえるような安全対策を行ってほしい。
- ・高齢化社会で高齢運転者が増える中、センターラインや反射鏡が明確に見えるように工夫するなど、高齢運転者に向けた分かりやすい道路標示が必要なのではないかと。
- ・生活道路について、道路一本一本ではなく、面として取り組んでほしい。また、裏道などの通り抜け通行が出てくることから、何かしら規制したりハンプなどのスピードを出させない工夫を考え、メリハリを付けて安全対策に取り組んでほしい。
- ・震災時や異常気象時において、通行できない区間や迂回路の情報など、交通規制情報を含めた道路情報をきめ細やかに提供できるようにしてほしい。
- ・冬場の特に吹雪の時などは標識も見えにくい。冬季でも分かりやすい道路標識の検討が必要ではないかと。
- ・山形県内の高速道路や地域高規格道路は、有料・無料を問わず暫定2車線の区間が多い。交通量の関係で片側1車線はやむを得ないが、そういう区間にもしっかりした中央分離帯をつけるなど、安全性をおろそかにしないしてほしい。

◆維持管理について

- ・橋梁やトンネルなどの目に見えるところの安全性を高めることはもちろん重要であるが、道路の地下に埋設されてある上水道や下水道といった施設の点検や補修を適切に行ってもらおうよう監視・監督し、道路の安全確保をしてほしい。

◆地域振興・観光振興について

- ・「道の駅」は、観光にも貢献するし、地域にも貢献する。この「道の駅」を次期中期計画の施策の中に位置づけてほしい。
- ・「道の駅」を、道路の休憩施設というだけでなく、災害のときにも使える、子供も楽しめる、観光客も楽しめる、といったような誰もが使えてなおかつ楽しめる施設にしてほしい。
- ・「道の駅」や SA・PA (サービスエリア・パーキングエリア) 等を活用した地域の経済活動を支援する取組みを行ってほしい。
- ・「もしもしピット」などの既存の道路施設を活用して景観を楽しんだり、そういったビューポイントで観光・施設案内をするなどの情報発信をすることについても考えてほしい。
- ・銀山温泉や南陽市では電柱・電線がなくなって街並みが良くなったと感じており、無電柱化による美しい街並み、みちづくりを進めてほしい。

◆その他

- ・道路関係の予算が減ってきていることから、確固たる道路整備の財源確保を盛り込んでほしい。

以上